

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100842		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台入綾		
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰丙1494-1番地		
自己評価作成日	平成26年8月5日	評価結果市町村受理日	平成26年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhouyou_detail_2013_022_kanistrue&jigyouyoCd=4572100842-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活に視点を置き、家事、その他、残存能力を引き出すことを目的に、職員全員で取り組んでいます。外部講師による音楽療法を毎月1回開催し、利用者の残存機能を生かし、自立を促す支援を行っています。「安心、安全」をモットーに、日々のケアに取り組んでいます。職員のレベルアップとして、今年度も「認知症介護実践者研修」を実施する予定です。資格取得を目指すように取り組み、職員は笑顔で接し、毎月の定例会では意見を出し合い、活動、行事等を計画して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護経験豊富な職員が多く、チームワークが良い。行事などがある時は余裕を持って時間が使えるよう、自発的に出勤時間を調整し、利用者のペースを乱さない配慮をし、また、自己評価記入においても、ホームは職員全員が関わる事業であるという思いで、管理者・職員、共に取り組み、作成をしている。理念の一つである「残存能力を生かし自立を促す支援」にも力を入れており、食べ物がすくえなくてもスプーンを持つ力があれば、それを生かす支援や日常生活における様々な場面の家事を、利用者の能力に応じ取り入れている。職員の接遇のよさが、利用者の表情や会話・笑顔に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入綾理念を玄関と事務所に貼って、理念に沿ったケアができるように心がけています。	3つの理念を掲げ、職員は共有している。本人に寄り添い、残存能力の見極めや近隣とのふれあいを大切にするケアが実践されており、理念が生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に野菜を頂いたり、地区の班に加入し、行事には進んで参加するように努めています。	地区の自治会に加入し、行事などを把握している。地区の掃除や公民館の掃除に参加し地域の一員であることを自覚している。また、近隣との交流もよく行っており、野菜のおすそ分けを頂いたり、ホームも行事食などのおすそ分けをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、認知症の人の理解や支援の方法を取り上げ、報告をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、委員の方より出された意見を後日討議して、日々の介護に生かせるよう努めています。	ホームの活動や利用者の状況を報告している。報告に対する意見や助言を受け、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、介護保険課の方の出席をお願いして連絡を密にとっています。	行政担当者とは相談しやすい関係である。ホームも利用者と共に書類を提出したり、行事案内文を届けるなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外門は、国道沿いで交通量が多いので閉めています。カギは閉めていません。玄関は自由に出入りできるようにしています。	外門は国道沿いであるが、2か月前から開け放ししている。職員は、拘束の弊害について理解しており、目配り・気配りをしながら、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議時に研修を行い、理解できるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加できず、まだまだ不十分です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、利用者及び家族に説明を行い、療養面・金銭面において納得を得た上で、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、利用者の日々の様子などをお伝えして、意見、要望を表せるように努めています。	運営推進会議に家族の参加があり、意見や要望を聞く機会がある。また、来訪時にも、要望をだしやすい雰囲気作りをしており、出された意見や要望は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会、毎日15分のミーティングで職員から意見を出してもらい、グループホームの運営に反映させています。	月1回の勉強会や毎日のミーティングにおいて、様々な意見や提案が出されている。また、申し送りノートなども活用し、情報の共有と共に意見や要望を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に参加する予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎に他の施設との意見交換を目的とし、管理者会議に参加しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく本人の要望を受け、安全一番を第一に考え、安心に努め、支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に応じて、その都度早めに不安をなくすように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含め、必要に応じて支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日一日楽しく暮らせるように、一人ひとりの立場を尊重し、支援を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りや思い出の写真なども入れ、御家族との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人、御家族、本人の住んでいた隣人など、気軽に面会していただくよう努めています。	外門を開け放してから、来訪者が増えている。毎月の利用料をホームへ持参する方式にして、利用者と家族が触れ合う機会としている。また、秋祭りには庭でなじみの踊りの披露や賽銭箱を置き、賽銭入れなどを楽しんでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでリハ・レク・軽作業を皆さんと一緒に声掛けして、孤立をしないよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受診時に面会するような心がけと、その御家族にはあいさつはもちろん、安心ある接し方に心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の顔色、笑顔、食欲や動作、身体全体を把握するように努めています。	利用者のペースに合わせ、ゆっくり時間をかけ、言葉かけを多くし、表情や動作から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から話を聞き、利用されていた施設などの情報を参考にしよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事や軽作業などを、無理のない程度に声掛けしてお願いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を把握し、それぞれの意見やアイデアを反映し、介護計画を作成しています。	毎月1回、全職員参加の勉強会で、意見を交換し、様々な情報を参考にし、本人、家族に寄り添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にとじ、介護計画を常に実践するよう心がけ、また、職員と情報交換し対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調やその時のニーズに対し、話し合いをして支援を行っています。		

宮崎県日向市東郷町 グループホーム仰星台入綾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の挨拶に加え、納涼祭や地区の奉仕作業に参加し、交流を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の付き添いのもと、毎月1回の病院受診を行っています。体調不良の場合は御家族に連絡し、専門医への受診をお願いしています。	月1回定期受診を行い、健康管理を行っている。他科の定期受診などに家族が同行できない時は、職員が付き添い、受診している。家族の来訪時や月1回の便り等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化に異変がある場合は、すぐに看護師に相談し、Dr.に連絡した上で、指示を受けるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に情報提供できるよう、毎日の記録を大切にしています。こまめに連絡交換を行い、退院時の為の環境づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を御家族に定期的に報告し、必要があれば、Dr.から御家族に説明を行っています。御家族、本人様の希望に合った支援を行っています。	身体急変が生じた場合の対応方針が明記された同意書を契約時に説明し、方針を共有している。また、ホームとしてもできる限りの支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回、職員での勉強会で事故予防などを話し合っています。万が一、職員一人の時間帯での急変・事故があった場合、Dr.に報告、職員の連絡網にて人員を確保しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が非常出口や消火器の設置場所を把握し、年に2回避難訓練を行って、消防士の方から指導を受けています。	消防署の指導の下、夜間想定避難訓練を行っている。利用者と共に住民の参加があり、地域との協力関係も構築されている。今季の大雨時には、職員全員で高台にある関連施設へ寝具持参の上、避難している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年配者として、一人ひとりの人格を尊重しながら、プライドを傷つけないよう、言葉がけを行っています。	常に敬う気持ちを失わずに、礼節をもって接するよう心掛けている。外出の行き先や更衣などにおいても選択しやすいように、言葉がけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合ったケアを行い、安心して毎日の生活を送れるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った声掛けを行い、その人らしく過ごしていただけるよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や誕生会などで本人の希望を取り入れながら、その人に合ったおしゃれができるよう支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と会話をしながら食事したり、茶碗拭きなど手伝いをして頂いています。	ネギを植えたり、落花生の皮むきなど、調理の下ごしらえを利用者と共に行っている。食事介助を要する利用者が3名おり、なかなか開口しない利用者には、職員の話術で笑顔を作り、介助するなど、食事が楽しいものになるよう工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックを行い、朝のお茶の時間に色々な飲み物を提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は、義歯の洗浄とコップにつけて、週一回のペースで消毒を行い、天気の良い日には日光消毒をしています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄表を確認しながら、トイレ誘導を行っています。体力の低下による立位困難で、トイレ誘導も難しくなっています。	排せつ表を基に、個人の排せつパターンを確認し、できる限りおむつの使用を減らす努力をしている。残存機能を生かし、トイレへ誘導し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリは、ほぼ毎日行い、飲み物食べ物などを工夫しており、排泄チェック表を確認して薬の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、先に来られた方から入浴を行っています。車椅子の方も、本人の体調に合わせ、気持ちよく入浴して頂いています。	入浴は、水曜・日曜以外となっているが、希望があれば、毎日入浴できる。利用者の体調に合わせ、隔日にしたり、お湯も熱め、ぬるめなどの好みに応じ、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後そのまま傾眠している時は、その人によって声掛けをし、ソファーに移動して頂いて、気持ちよく休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化があった場合、特に気をつけて記録にマメに目を通し、誤薬に気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った会話をし、本人も昔の会話は覚えているので、出来るだけ話を聴くようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員が多い日など、出来るだけ外出をして気分転換をして頂けるように気をつけています。	近くの公園や関連施設に散歩に出掛けている。どこに行きたいかの希望を聞き、天気がよければ出掛けている。また、地域の祭りへの参加や季節の花見ドライブも取り入れ、楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が使いたい時、必要なものが要る時など、いつでも間に合うように、詰所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来た時など、本人に読んで聞かせ、電話などでお礼の言葉を言うように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見える景色が山なので、自然の眺めを見て、目を休めてもらう為、遠くを見たりして目の疲れを取ってもらうように配慮しています。	各居室から一歩廊下に出ると、居間の様子がわかるつくりとなっており、食事の下ごしらえや調理の様子が伺え家庭的な雰囲気を醸し出している。ソファや椅子で思い思いにくつろげるように配慮し、壁には季節感あふれる作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごせるように、ソファなどに腰掛けて寛いで頂いています。利用者様同士でお話したり、歌を歌ったりして過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では衣類などを収納するのに必要な、かつ、使い慣れた小ケースを御家族と相談して持ち込んで頂いています。	使い慣れた寝具や生活用品が持ち込まれ、その人らしく落ち着いて暮らせる居室となっている。家族の写真を飾ったり、時計を設置するなど、利用者の機能維持にも工夫した居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を見守りながら、出来るだけ自立支援を行い、不自由な所は手を差しのべています。居室の手すりも設置を行いました。		